



あべ かよ こ
阿部加代子
(公明党)

- 自死防止対策と「こころの体温計」について
- 指定の病院等の不在者投票の外部立会人について
- 自転車安全対策について

質問 遺族からの希望もあり「自殺」ではなく「自死」と言う言葉を使わせていただく。岩手県の自死者数は平成10年以降高い水準で、平成24年の人口動態統計では自死者329人で全国ワースト4位。県の実態より自死率の高い当市の防止対策への取り組み状況は。

「こころの体温計」はパソコン、スマートフォン等から簡単な質問に答える事でストレス度や落ち込み度等自分自身や家族の心の状態をチェックし相談窓口の情報が表示されるシステムだが導入の考えは。

市長 自殺対策緊急強化補助金を活用し「普及啓発」、「相談早期対応」、「ネットワークづくり」に取り組んでいる。昨年からは、ゲートキーパー事業も実施し、地域関係機関との連携拡大を図っていく。「こころの体温計」は、青年、壮年層への情報提供として有効であり、県の動向を見ながら検討する。

質問 指定病院等の外部立会人については。

選挙管理委員長 本年5月公職選挙法の改正により指定施設の不在者投票の実施の際、外部立会人を置くことが努力義務化となった。外部立会人の拡充に努め指定施設での活用を要請を強めていく。

質問 自転車の安全運転の指導、ヘルメットの使用、点検・保険への加入の取組みについて伺う。

教育委員長 毎年全ての小中学校で自転車教室を行っている。ヘルメットの着用は保護者の努力義務だが、中学校で3校が義務付けられておらず協議中である。点検は自転車教室で行っており、保険の加入は自転車通学の様式変更で確認していく。



ストレス度や落ち込み度をチェックする「こころの体温計」(北上市)



いざか かず や
飯坂 一也
(公明党)

- 外国人観光客の誘客促進を
- がん検診の周知を民間との協働で

質問 国では「観光立国」の旗印を掲げ、外国人観光客の誘客を促進している。市としても積極的に取り組むべきと考えるが。

市長 岩手県においては台湾との国際定期便の運航を目指して、歓迎行事を実施するなど取組みを強化している。

今後、外国人観光客の誘客は大変重要である。

質問 県においては台湾やタイからの誘客に注力している。県との連携を強化し、市の持つ観光資源を戦略的に展開すべきと考えるが。

市長 市単独で海外訪問等による誘客活動を行うことは、現段階においては難しい状況であるが、県や県観光協会等の取組みに参画するとともに、特に台湾からの誘客については、交流実績のある民間団体を手掛かりとして、様々な角度から検討していきたい。

質問 がんの検診率が低迷していると思われる。市民への周知は行政だけではなく、金融機関などの民間と連携し、協働で進めべきと考えるが。

市長 民間との連携については、現在、実施していないが、啓発活動の一つの手法として今後検討していきたい。



287人の観光客が来県
昨年12月に岩手を訪れたタイからの観光客